

## 1. セッション名

静止軌道からの常時地球観測と大型分割望遠鏡システムの研究開発

## 2. オーガナイザ氏名、所属

代表	氏名	所属
	木村 俊義	宇宙航空研究開発機構
○	水谷 忠均	宇宙航空研究開発機構
	篠崎 慶亮	宇宙航空研究開発機構
	巳谷 真司	宇宙航空研究開発機構

## 3. 概要

現在主流である低軌道（極軌道）の地球観測衛星は、観測要求から観測実施、データ配信までの時間が長く、災害等における緊急観測の要望に対する課題が存在する。この課題を解決するアプローチとして、多数の小型衛星群による観測、静止軌道からの観測、等が考えられる。このうち、静止軌道からの光学観測では理論限界（回折限界）が大きな制約となり、実用的な地表面分解能を実現するためには高い精度を持つ大型望遠鏡が必要となることが技術的な壁となっている。

JAXA 研究開発部門では、望遠鏡の口径を従来光学衛星の倍以上となる 3.6m に拡大させ、現実的な分解能（約 7m@直下）と、観測要求発生から 30 分以内の観測データ配信を両立するオンデマンド地球観測システムを検討している。本 OS では 2020 年から引き続き、静止光学衛星を実現するために必要な技術開発など関連する幅広い技術開発の状況を紹介する。